

東日本大震災とその後の子どもたちを

支えている人たちインタビュー

第1回

◎支えている人／話し手：橋本鮎子さん

神奈川県出身。大学卒業後、農業系の出版社に就職後、結婚して2010年より宮城県大河原町在住。7歳、4歳、2歳の三兄弟の母。長男が3歳の時に「外あそび親子サークルやろっこひなっこ」を立ち上げ、現在は三男と一緒に活動中。



◎外あそび親子サークルやろっこひなっこ

2016年4月、小さい子を持つお母さんたちで活動始める。大河原町・柴田町とその周辺の自然の中で、こどもたちがのびのび遊ぶ姿を見守りたいという気持ちで、母と子であそんでいる。

「とにかく、思いきり子供に外で遊んでもらいたい」、「子供の、その時の“やりたい!”気持ちを大切に」、「五感を使って自然と友達とたくさん遊んでほしい」、「触って、掴んで、登って、飛び跳ねて、ぶつかって、けんかして、そこから考えられる子供になってほしい」という願いを持つ。

「やろっこひなっこ」は、方言で「男の子、女の子」という意味。

活動のはじまりの前に

元々自然が好きで農業関係の出版社に勤めていましたが、その前は福島県の農村に1年間住み込みでボランティアをして、自然と付き合いながら生活をしたと漠然と思っていました。横浜育ちなので、小さな自然は原体験にあったんですけど、暮らしの中に自然がある感じではなかったんです。自分が大きくなるにつれて、農業に関心持ち、農村に住まわせてもらう経験を通して、暮らしの中に自然がある生き方がしたいなと思っていて。レジャーではなくて、田畑で採れたものを食べたり旬のものを分かちあったり、そういう経験を自分が積み重ねていきたい、それが喜びだなと感じていて、家族もそうあったらいいなと思っています。子どものときだけでなく、生きていく中で接点を持ち続けながら生きられたらいいなど。それは、こどもが関わると1人ではなかなかできなくて、仲間がいたら分かち合うこともできるし、こども同士も楽しみながら存在し続けられる。だから仲間を作りたい、と思ったのが元々の始まりですね。学生時代の経験と、農業系の出版社で農家さんを回った経験

とがつながっています。

森のようちえんは聞いたことがあるフレーズで、こどもが生まれたら、森のようちえんいいなあとくらいでした。宮城県で調べると団体は見つかりましたが、行くまでに1時間半くらいかかるので通うのは難しくて。その後、2014年に宮城県で全国交流フォーラムがあったときに、一緒に行った友達とおさんぽ会くらいなら出来るかなという話になり、2016年に始めました。

いまの形

会員は現在16組くらいです。赤ちゃんが生まれたばかりの人とか、ようちえんにあげた人もいるから、常時来れるのは6〜7組、少ないと2〜3組。卒会したら幼稚園に入れる人が多いので、2〜3歳が中心、年少さんの年齢の子も何人かいます。卒会した子も、夏休みになるときてくれます。活動は、去年までは週3日、今年はコロナの影響でメンバー集めに苦慮して、週2日で週1日は予備日にしています。月に1回、季節のイベントをしたり、身近な自然を生かして何か作ったり食べたりとかもやっています。

基本的には、こどもたちにどうしたいか聞きながら、おさんぽしています。あっちにあげび、こっちには桑の実があるよ、などはたらきかけをする時もあります。おさんぽが中心になったのは、駐車場やトイレやスペースがあって継続して使えるような拠点となる場所が見つかってないから。拠点があって気軽に煮炊きできるといいのですが、それがなくて、おさんぽ。主なフィールドは、太陽の村の散策路。太陽の村は敷地が広くて、大体の人は遊具がある場所で遊ぶんですけど、私たちは遊具がない山の方であそんでいます。それから、畑があった年もありますが今年はちゃんとはやってなくて。市民農園を始めた元メンバーのお母さんが呼んでくれたり畑のおじさんに呼んでもらったり。おいしいとこどりの感じなのですが、そこで畑作業をさせてもらっています。

部活動というものもあって、例えば山部は私ではない人が中心に、月に1回、お父さんを巻き込んで近くの山にみんなで登ろうという活動をしています。最近はやろっこがコミュニティになってきている気がします。LINEグループでこんなのがあるよと流すと、小学生の子も巻き込んでやるようになります。そうすると参加する家族の数や年齢の幅も広がり、人数も増えてわいわいやっています。

やろっこのこどもたちは自然で遊ぶのが上手。はじめて来た時は、どうやってあそんだらいいかわからない子がいますが、山に入って枝を見つけたら振り回してみたり、大きい枝を絡ませてテントみたいにしてあそんだり、なにもないところからあそぶのがとても上手だと思っています。



集まっている人たちは

外遊び、気持ち良さそうだよね、みたいな感じで来る家族が多いです。全体的な雰囲気としては、のびのびとしているかな。そういう雰囲気が好きな人が残っています。こどもが楽しんでいることもあるけれど、お母さん自身の気持ちが安らぐ人が集まっている気がします。やろっこで畑を始めてから、市民農園を借りて畑始めた人もいるし、普段は働いていて休日に保育園を休ませてきている人もいるし、普段は家の中で過ごしていて、やろっこの時だけ外に出てきて、とか。始めは、元から森のようちえんみたいなのが好きな人が声を出したら結構集まるかと思ったら、集まらなかったんです。なので、車で20分圏内の地元のお母さんたちで、ちょっとでも興味あるなって人に集まってもらえる場にしたいなって思ったので。森のようちえんの価値観を元からよくわかっているような人たちの場ではなく、子育てについての考えはそれぞれでも、子供をのびのびと遊ばせること自体が好きとか、お母さん自信が青空の下が気持ちいい、このメンバーといると楽しいと思ってくれているお母さん方が集まっている場です。

ブログやチラシには「いいだしっぺはいるけど、リーダーはいない」と書いていますが、リーダーのような存在は実質私です。最初是一緒にフォーラムに参加した人と一緒にやっていて、全員、全会一致でやっていきたいって始めたけれど、実際は思いや情熱も違っていて、やっぱり皆一緒に考えるのは無理がある。今はできるだけ皆の意見を聞く機会を作りながら、2～3人の運営メンバーで意思決定をして会を運営しています。

放射能について

やろっこでやっていること

活動を始めてから、人を集める立場になっている以上、無責任なことではできないと思って取り組んでいます。まずは、太陽の村など活動フィールドの空間線量を計りました。そこから「放射能測定室でとてと」にご協力いただきながら、空間線量を測りながらフィールドを回る勉強会や、土壌や食品の測定もお願いしています。わからないことは質問できる環境があります。

チェルノブイリの話ですが、ベリー系にセシウムが出やすいという話を聞いたので、始めはキイチゴや桑の実を食べていいのかなって思っていたんですけど、2019年に測ったらキイチゴは0ベクレルだったとか。たけのことか山菜類はけっこう出やすいんですけど。ヨモギは、さっと洗って測ってもらったら4ベクレル出ていて。やっぱり出るんだねと思ったら、ちゃんと土を落とした？もうちょっとちゃんと落としたほうがいいかもよ、と言われて、よく洗って測ったら0ベクレルになりました。ヨモギ自体がセシウムを吸収してはいなくて、たまたま付着していた土にセシウムが混じっていたんだなってことがわかりました。なので、面倒なんですけど、何か食べる時、そういうものがある季節は水道の水を多めに持っていて、ちょっと洗い流して食べるようにしています。いつも野山で食べたりするから、そうするのがいいのかなって。2019年に、3年間勉強会を通してわかってきた事、気にした

ほうがいいかな、とか、やろっこ内で共有したいなということを、活動フィールドのマップに書き込んでまとめました。

母たちの意識

やろっこのお母さんたちは、放射能に関して意識が元から高い人もいるけど、やろっこに参加してから知っていく人の方が多かったように思います。活動を立ち上げたのは震災から5年経った時なので、震災当初に子どもがいなかった世代がほとんど。放射能に対して震災当時そこまで危機意識が高くはなかった印象です。やろっこで勉強するようになって、やばいって思うよりも、考えなきゃって思うようになっていった人が多い気がします。放射能の話題を出すにつれ、気にしている、気にしていない、わかっていない、いろいろな意識の方がいる事が分かってきたので、やろっこの中で放射能の話題をタブーにしないで、ちょっと気になることがあったら、お互いに話せるようにするという風通しのいい関係づくりが一番だと思うようになりました。



地域の意識

今はいろいろ状況が分かってきたので、気をつけたほうがいいこと、そうでもないことの線引きができてきているけど、地域的にも、私がこちらに来てからの生活のあり方を考えた時にも、意識せざるをえないテーマになっています。今は日常的に話すことはあまりないし、震災当時も話せるなって人としか話せない感じはありました。バックグラウンドによって思っていることはそれぞれだから、例えば震災当初や1年2年後に、たけのこもらったときに、気軽に渡せる人もいれば、戸惑う人もいて。仕入れている情報によるので、この人になんていったらいいんだろうって、みんな判断しかねて。ちょっとしたことで、この人は価値観が違うんだなってなると、付き合いづらくなるってことが一般的なお母さんとの付き合いではありました。

震災当時、私には子どもはいなかったんですが、当時子供がいた方は震災から2～3年くらいは、この辺りも雨水がたまるところは放射能高いから気をつけようとか、砂埃が舞う時は気をつけようとか、風強い日は洗濯物干さないとか、外遊びを自粛しようとか、少なからず考えていたはずです。でも、福島から移住してきた人もいるし、人によってはここから移動した人もいます。一時の移動の人もいれば、移住した人もいます、という地域ですね。そこまで気にしていない人も、少なくとも震災後1年は気をつけていたと思う。線量は落ちてますね。除染したところも町内にありますが、除染をしなくても、うちの庭で震災後2000ベクレルだったのが、2018年は378まで下がっていました。(自然に下がった分+表面をはぐ除染をした場所の線量です。)

放射能と自然体験

震災から時間が経って、こどもたちが自然の中へ戻った感じではないです。震災後、イメージとしては自然遊びを自粛するというより、校庭で遊ぶことを自粛していた感じ。線量が高いところ、外で遊ぶってことを自粛していたと思います。それが震災から4～5年経ってすっかり元に戻ってきていると思う。自然の中で遊ぼうとする時、放射能を恐れる影響が残っているかと言うと、この地域でいえば、そんなに変わらないと思います。元々そんなに自然の中に行っていないし、いまも行っていないという子が多いような気がします。日常的に外であそんでいるこどもがいないんですよ。話がずれますが、子どもたちが小学校や幼稚園から帰ってきてからの悩みです。周りに住んでいる子と外で遊ぶ機会がなくて、わざわざ車で人がいる公園に行ってあそぶとか。

これからの話

やろっこで、つむぎ部という部活が始まりました。丸森町では養蚕農家が5軒残っているのですが、養蚕農家で作られたくずまゆを紡いで販売していて、養蚕をもっと盛りたいという活動を地域おこし協力隊が始めて、それをやろっこの有志で関わらせてもらっています。ちょっとしたマルシェで販売しました。お母さんたちの手仕事が今後も続いて行って、気の合うお母さんたちとこどもが大きくなっても繋がりが続けていけたらいいなと思います。



◎宮城県の「外あそび親子サークルやろっこひなっこ」の橋本鮎子さんにお話を伺って 酒井真由子

インタビューでは、橋本鮎子さんより、震災から数年間は夏でも長そでを着て、屋外へ出ることをできるだけ控えていたこと、今でも外遊びをする際には放射能MAPを手がかりとしていることをお聞きしました。そして、インタビュー後の帰り際には、橋本さんが何気なくおっしゃった言葉「コロナ禍での自粛は、放射能で味わっているから新しいことではない」が、私の心にぐさりと突き刺さりました。

余談になりますが、私は子ども時代を広島で過ごしています。当時の広島の小学校では授業や課外活動などで、事あるごとに「原子爆弾と放射能」を扱っていました。そのため、私は「放射能」の怖さを痛いほどわかっていたつもりでした。東日本大震災による原発事故後

の放射能についても気にかけていました。にもかかわらず、橋本さんらが震災から 10 年が経った今でも、放射能と向き合わざるを得ない生活を余儀なくされていることの多くを、私は知らなかったのです。今回のインタビューを通して、自分から知りたいと思って動かなければ知ることができないことがたくさんあると、改めて痛感しました。

さて、宮城県でも放射能のことを口にする機会が減っていると言われていています。そのような中でも、橋本さんは「外あそびサークルやろっこひなっこ」の仲間と共に、活動フィールドの空間線量と土壌や食品の線量を測定し、放射線について学んでいます。これまで放射能についてあまり意識していなかった保護者も、「外あそびサークルやろっこひなっこ」の活動に参加することで、「考えなきゃ」と思うようになっていくそうです。保護者は自分で線量のデータを見て、自分で判断していく、気になることがあれば話し合うようにしているということです。子どもの外遊びを支えるための「外あそびサークルやろっこひなっこ」は、保護者の方々が繋がっていく場であると同時に、現代社会に必要な要素の一つである「疑問があれば調べたり学んだりして、そして仲間と話し合いながら、自分で考えて判断していく」ことを体験し、身につける場にもなっているのではないかと思います。そうした保護者（大人）の姿を見ている子どもたちも、放射能について学び、仲間と話し合い、自分で考え判断するようになるのではないのでしょうか。

コロナ禍というタイミングで橋本さんにお話を伺えたことは何かの巡り合わせのような気がします。東日本大震災における原発事故後の放射能汚染は、宮城県や福島県だけでなく、みんながそれぞれの立場で考えていかねばならない問題であり、またコロナ禍における問題と共通することがあるような気がします。まず私にできることを考え、行動していかなければと思っています。

聞き手 小林成親

まとめ 酒井真由子

編集 清水冬音